

社長の経営哲学の構築にお役立ちする

税理士法人 優和

# 経営者への活きた言葉

TEL 03-3455-6666  
FAX 03-3455-7777

## 経営者への活きた言葉

### 正しい判断を下すことが経営者の最大の仕事 宮内 義彦（オリックス・シニア・チェアマン）

1. 日本にまだ「リース」という金融手法が認知されていなかった時代にたった 13 人で創業。以来 50 数年の時を経て、世界にも類を見ない多角的金融サービス業として発展を続けてきた企業がオリックスだ。長きにわたりその舵をとってきたシニア・チェアマンの宮内義彦氏は言う。「今日のオリックスはただ一瞬の姿でしかなく、明日にはもう変っていなければならない。企業とは、過去をしっかりと理解し、それにとらわれず、正しい変化を遂げる挑戦を続けてこそ成長できる」と。
2. 「ミッションが正しければ信念をもってやり遂げられます、それに、例えて言うと『エベレストに登れ』と極端なことを言われたわけではなく、せいぜい『普通の山を駆け足で登れ』という程度のことでしたから」と宮内氏は言う。
3. バブル崩壊後、リーマン・ショックといった経済危機にも直面し、そのたびに時代の変化に応じた構造転換を行ってきた。「有事の際には何を考えどう動くか、正しい判断を下すことが、経営者の最大の仕事でしょう。経営者の判断一つで会社を潰してしまうこともありますから、外部環境に悩まされる時期もありましたが、常にベストを尽くしてきました。

(参考:「日経ビジネス」2017年5月29日号)

## 経営者のための理念・哲学

### 師と出会う機縁（その2）

中西 輝政（京都大学名誉教授）

童門 冬二（作家）

（童門）「これでいい」なんていうパーフェクトな人間はいないわけで、誰でも欠けている部分はある。それを補ってくれるのが師なんです。よく人生を起承転結でくくったりしますが、「人生はこういうものだ」などという「結」を持ったら師に対するニーズもなくなるし、不遜な人間になってしまうような気がします。

（中西）人生も仕事も「自分のいまの考え方ややり方でいいんだ」という考えを持つ人は、本当の意味で師を求めようとはしていないのです。「これでいいのか」「このままではいけない」という自分への問い掛けを持つからこそ向上心が生まれ、師を求めざるを得なくなるのだと思います。人は一生、師を必要とするものですが、特に 20 代から 30 代における青春の悩みは師に出会う準備なのでしょう。

(参考:「致知」:2017年7月号)

## 経営者のための危機管理

### ここを分析する（再建の手法・その2）

森岡毅（元ユニバーサル・スタジオ・ジャパン、  
チーフマーケティングオフィサー）

1. 真の分析とは、リーダーシップを伴うものだ。誰に何をインフルエンス（影響）させたくて分析しているかが、つねに頭に入っている。「上司から言われただけ」とか、「同じ分析ばかりで飽きる」と愚痴る人は、データ分析とは似て非なるものをしてている。
2. 事業本部長を説得し、社長も賛同させ、戦略に影響を与えたくて作ったレポートと、のべつまくなしに命じられて作ったレポートとでは、クオリティが全然違ってくる。よい分析には「魂」が入っていないてはならない。

(参考:「週刊東洋経済」2007年6月3日号)

## 古典に学ぶ

### 切腹について

（解説）セツクは単なる自殺行為ではなかった。切腹は法的かつ儀式的な一つの制度であった。中世に作られたものとして、切腹は、武士がその罪滅しをし、誤りを詫び、恥をまぬがれ、その友を救う犠牲となり、自分の誠を証明する行動であった。切腹は武士の職分にとくにふさわしかった。

(参考:佐藤全弘(訳)新渡戸稲造「武士道」:教文館)